

～ 別院 だ よ り ～

本 願 力



おみがき会

発行

真宗大谷派 本願寺横浜別院

〒234-0051

横浜市港南区日野一―十一―八

TEL (〇四五) 八四一―三四三四

(http://www.yokohama-ohtani.com)

任期延長・今現在説法、病中聴聞IN神奈川

輪番 竹部 俊恵

前回の「本願力」で、私は四年間の輪番としての任期が満了したことをお知らせ致しました。しかし、その後、本山から、もう二年任期を延長し、二〇一六年(平成二十八年)四月三〇日まで輪番の任に留まるようにとの辞令を拝受しました。私が輪番として分不相応であることは、本人が一番了解しているところですが、辞令を受けた以上は、皆様のご指導とご鞭撻をいただきながら、働かせていただきます。どうかよろしく願います。

ところで、この辞令は、本来なら本山で拝受すべきところ、実は、私は病院のベッドの上でいただきました。四月二十四日、私は、ある懇親会のと自宅に帰ってから、突然急激な胸痛に襲われました。緊急搬送された病院で、心筋梗塞と診断され、生まれて初めて四十六日間の入院と、今まで聞いたこともなかった、カテーテル治療と心臓冠動脈バイパス手術(三本)を受けました。

心筋梗塞は、申すまでもなく狭心症の一つで、心臓を動かすための筋肉に血液を送り込む冠動脈が、梗塞(詰まる)するか、狭窄(狭まる)しているために、心臓が十分働かず(心不全)一気に死に至る可能性の高い病気です。実際最近思いつくだけでも、放駒親方、サッカーの松田選手、久保田鉄工の社長、バリトン歌手の平野東京芸大名誉教授は、急死されました。また、今上天皇陛下、林文子横浜市長、天海祐希、安西マリアは、治療や手術を受け、命を取り留められました。私の場合、三本の冠動脈のうち一本は、完全に梗塞しており、残り二本も狭窄状態でした。その梗塞している一本に、手首と足の付け根から、バルーンヤスメント(筒状の金網)を冠動脈に送り込む治療を受け、さらに、三本の冠動脈全てにバイパス手術をすることとなりました。十一時間にわたる大手術でしたが、経過は極めて良好で、術後一週間で退院し、その後、自宅でゆっくり休みながら、リハビリに励み、輪番の任に復帰するための準備をしています。

ところで、この千載一遇の四十六日間に及ぶ体験の中で、私は本当に多くのことに教えとして出会い、「今こそ真宗」と何度も何度も思わされました。その一つは「生死」二つは「いのち」そして、三つめは「宗教・仏教・真宗」です。

私は、今回の病気を経験する中で、心臓血管外科の医師から、「あなたの病気は、発作が起きてから、二十四時間以内に三〇%の人が死亡し、そのうち五〇%の人が一時間以内に亡くなる病気です。また、あなたも含め、人間は、五秒心臓が止まるだけで気絶してしまい、五分心臓が止まれば脳死してしまう中で、今を生きているのです」と聞かされ、生命科学としての自らの命の実像を知らなすぎること知らされ、そのことが、「賜わりしいのち」としての自らを、あまりにも粗雑にしていたことを指摘されました。その医師の言葉は「無知の無智」がもたらす底知れぬ私の闇（知らないから平気・気が付かなかったから横柄・思いも寄らなかつたから恥じない）を暴いてくださいました。

二つ目は医師からカンファレンス（症状の説明）を受けているときに「いのち」について、私と少し捉え方にずれを感じたことです。心臓血管外科の先生のいのちは、はっきりしています。つまり、いのちとは、現実には心臓が動いている現象そのものです。ですから、今、私に対して行われている医療的行為も、私の心臓が、長期にわたって安定して動いていくようにすることです。先生は、そのために必要なら心臓移植も認められると断言されました。

一方、私は、いのちを、いのちの歴史性や、いのちそのものが人知を超えて働きかけてくる促しとして

捉えていました。ただ、次第に話し合いが深まる中で、先生は、こうもおっしゃいました。「手術は、やってみなけりや分かりません」「私たちの予想を超えることが起こってくれば、手術を中止することもあります」つまり、全ては人体の中で展開される道理、法則性に従って行うことで、その法則性を逸脱して医療行為は行われたいと言っておられると思いました。よくよく考えてみれば、医療行為も、いのちの促しの中で行われていて、本当は私のうなずきと、ずれなどはなかったのです。その法則性から一歩も出ない姿勢こそ「尊きいのち」と仰いで止まない姿といただきました。実際、術後、私の体は、私の思いを超えて「治ろう、治ろう」として、薬等の支援を受けながら、情熱的ときえ思えるほど能動的でした。

最後に、四十六日も入院していると、ドクターやナースの皆さんと仲良くなれました。毎日が未体験の世界に住んでいると、かけてくださる「言葉」が、どれだけ「共なるいのち」とうなずけたことか。私は「ありがとうございます」と何度も何度も合掌していました。また、その会話の中で、いつしか、私が、浄土真宗の僧侶で幼稚園の園長であること。富山県の出身で中学の教員だったことも知れていきました。そうなる、おもしろいもので、「宗教・仏教・お寺・お坊さん」に対する大体のイメージが、私に伝えられて来るのです。大ざっぱに言えば、宗教は、神秘主義（神仏を拜んで祈りますが、頼んで助けてもらう）であり、仏様は、お願いおねだりの対象。また、仏教は死後の世界のこと、生きている間は関係ない。そして、お坊さんは、修行をしている特別な人。だから、あるドクタ

ーが「お坊さんが何で心筋梗塞になったのかな？」なんてつぶやいていました。

本当は医学も仏教、とりわけ浄土真宗も、全ては法則や道理・縁により、私の欲心を超えて生き死にしていることに深くうなずき、「尊きいのち」といただいています。それなのに、宗教・仏教に對しての了解は、あまりに不十分でした。この誤解を解くことは、宗教・仏教・真宗を標榜する者たちの喫緊の課題だと思いました。

先日、今年も七月十三日から十五日まで、横浜別院の盃蘭盆会の法話にお出ましくくださる、名古屋の亀井鑛先生からお手紙をいただきました。その中に、今書店に並んでいる「大法輪」の五、六、七月号に連載中の先生ご執筆の「曾我量深 仰せ歌」のコピーが同封してありました。その中に、四十六日間悶々としていた私に、いくつもいくつも「そうだった」と教えてくださる言葉が連なっています。中でも、私は次の言葉にはとどきさせられました。「親鸞は『愚禿鈔』で『深信自身（自分を深く見つめる）』と説きます。自を是とし他を非として独善独断にとられ、法に背き道理に違う自分』を知らされずにはいません。それ以外に何もも持ち合わせていない。その自覚。するとそこに、思いもよらない転回（展開）が向こうから開かれる、たまわる。悪逆の我と頭の下がった時、周りの人から包み込まれ、肩組みかわす世界が開け、自分自身も心軽やかに、柔和な、さわやかな視界が広がってくる。ひとりだに、自然にそうなる。これを法のはたらきのたまもの。法の深信と教えられます。（中略）それを親鸞は『深信乗彼岸力（本願の働き通りになると深くうなずけ

る』と説いております。『法によれ、法に帰れ』が本願の心。南無阿弥陀仏の呼びかけは、それ一つを願いかけられる」

今こそ、縁によつて生老病死を生き延びているの場で、私の生き様が、法に照らされて、その意義を知らされていく道を共々に歩ませていただきたいと強く思つたことです。 合掌

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

別院門徒懇志者について②

昨年十一月より、御遠忌法要ご門徒懇志（寄附）をお願いしておりますが、二〇一四年六月十五日現在の募財状況をお知らせさせていただきます。

【横浜別院門徒懇志金】

金 22,590,288円（169件）

今現在、別院本堂には懇志金を頂戴した方の芳名を披露させていただいておりますが、前回の別院便りより、本紙にも芳名を披露させていただくことになりました。

また、七月にご自宅へお盆参りに伺いました時にも、ご質問等どんな事でも結構ですので、何でもおつちや下さい。丁寧な説明をさせていただきます。重ね重ねになりますが、深いご理解とご協力をお願い致します。

【芳名披露】（二〇一四年三月一日から五月

三十一日まで・敬称略、順不同）

渡部博正、田中美晴、江場利敬、野崎新一、田悟忠夫、伊藤匡高、田部照子、瀬戸吉尋、牧野弘、高城雅允、本村洋司、太田雍子、加納征四郎、佐藤サダ子、堀富子、渡辺博、石見俊枝、村田敏憲、吉田昭典、原博、紙谷安二、金持忠、平林恵子、南谷則子、齋藤富喜子、榎善夫、塚原景子、塚田時雄、野村富夫、古川敏郎、湯尾真弓、渡辺義次、白井榮次郎、川本守彦、服部昭雄、當山祐子、原野澄子、後藤貴美子、杉之下江子、鍋島フミ子、奥山俊司、山形信子、田中貞子、花村圭一郎、生嶋勝美、土橋妙子、田中美智、北川芳郎、高木誼、吉村正次、鈴木正枝、柴田静代、石田宏子、田中晋一 以上

本堂修復・神奈川教化センター新築工事

進捗状況（六月末日現在）



永代経法要（五月二十八日、二十九日）

講師である海法龍先生から、「永代経は、亡き方の死を縁として、お釈迦さまのお言葉（お経）に触れ、お経の願いに触れ、本来を見失っているわれわれが、あるがままの相へと還っていくことが願われている法要である。」と永代経の心を話いただきました。



別院声明儀式研修会（六月十一日）

今回は、三浦市にある来福寺（和田住職）をお借りして、研修会が開催されました。講師の友松雅英先生は、「文類偈真四句目下」を實際に一人ひとり当てながら、本人の声を聞いてご指導いただきました。非常に丁寧な研修会となりました。



おみがき会（六月十五日）



【重要】

本堂営繕のお知らせとお願い

本堂内部の営繕に伴い、当別院本堂は二〇一四年十一月十日から二〇一五年二月末まで使用できなくなります。ご門徒の皆様方、別院に係る皆様方には大変ご不便をおかけいたします。

本堂に於いてご法要・年回忌等もご利用できなくなってしまう。つきましては、この期間は大変恐縮ではございますが、ご自宅または、十一月十日以前に繰り上げて法要・年回忌等を勤めさせていただきます。ご配慮下さい。

皆様方には、ご不便をおかけいたしますが、重ねてご協力をお願い申し上げます。

二〇一四年度第二回 横浜別院声明儀式研修会のご案内

【日時】 七月三十一日(水) 午前十時半～四時

【講師】 竹橋 太師(本山本廟部出仕)

【内容】 真宗の儀式を考える⑤

【会場】 真福寺(平塚市馬入本町14-10)

※駐車場はあります。

【参加費】 千円(昼食代となります。)

※寺院・寺族対象の研修会です。

間衣・輪袈裟にて、「真宗の儀式」等持参下さい。お誘い合わせの上、ご参加ください。

※会場が別院ではありませんのでご注意下さい。

行事予定

七月

定例法話

午後一時半より

九日(水)

川崎組称名寺

本多 暁 師

二十八日(月)

輪番

竹部 俊恵 師

盂蘭盆会法要

午後一時半より

十三日(日)～十五日(火)

清沢満之記念館常任理事

亀井 鑛 師

八月

定例法話

午後一時半より

九日(土)

湘南組法閑寺

大住 誠 師

二十八日(木)

輪番

竹部 俊恵 師

※七月十八日、八月十八日はお休みです。

暁天講座 ご案内

日時 八月二十三日(土) 講師 本多 雅人氏

(東京二組 蓮光寺住職)

八月二十四日(日) 講師 田口 弘氏

(東京坊主バー会長)

場所 別院本堂・午前六時半より 参加費 無料

※軽食を準備しております。

※暁天(ぎょうてん)とは、明け方の空という意味です。

昨年は大変多くの方に参加いただきました。早朝の涼しい時間帯に今年もお越し下さい。

編集後記

今年も暑い夏がやってきました。ただし、今年の夏は例年とは違います。それは、本願寺横浜別院が今現在建築工事中であるということです。仮事務所での業務は、中々大変ですが、来年の四月の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に向け、着々と準備をしている毎日です。

しかしながら、「逆縁」と言いまししょうか、こういう大事な時だからこそ、色々な事が起こります。まさに、竹部輪番のご病氣は、青天の霹靂でした。

それでも今、ご門徒の皆様と共に未来を創るために、前に進むべき道であると信じております。(家本)

横浜別院にご参拝

次の通りご参拝がありました。ありがとうございます。
二〇一四年六月十一日
北海道教務所ご一行様
東京教務所ご一行様